



## 研修医日記

作成者：芦田 雄汰朗（2年次）

ベタなものが好きなことに気がきました。

喫茶店に行けば、ホットコーヒーとナポリタンを注文してしまいます。その時、心の中で「ベタだな～」と自分に突っ込んでいます。一時期、週末の度に喫茶店に行っていましたが、ナポリタンとコーヒーを常に頼んでいました。こんなことをするのはナポリタン好きか、コーヒー好きか、いやベタ好きです。

さらにたちの悪いことに、一応メニューを一通り見てから注文するのです。頼むものが決まっているのであれば、水とメニューが運ばれた時点で間髪入れずに頼めばいいのに。一応言い訳をさせて下さい。まず、恥ずかしいのです。そんな可能性はありませんが「頼むものが最初から決まっているのか？しかも喫茶店でナポリタンとコーヒー？」と思われるのでは、と考えてしまいます。ベタな人に見られたくないのです。もう一つ、ベタが崩されるのを楽しみにしているというのもあります。メニューの中に自分が心に決めていたものを超える何かを求めているのです（面倒くさいと思われるでしょうが）。そのような自分を俯瞰して、メニューを見ているときは「面倒なやつだ」と思い、注文するときは「ベタなやつだ」と思っています。加えて、あの美味しさを知ってしまうと、それに抗うことはできないことも一つの要因かもしれません。

一見、ベタでないことにも私にかかればベタベタと手垢のついたような感じになってしまいます。剣道という比較的競技人口の少ないスポーツを長く続けているのにも関わらず、得意技は面（おそらく誰もが最初に習う技）、構えは中段（これは大体の人がそうですが）、攻めが強いわけでも守りが強いわけでもない戦い方、と競技者の中では平々凡々です。何かに特化して稽古に取り組んでいたわけではありませんが、ゲームのパラメータで例えると小さい五角形が完成して終わりました。もちろん多少の癖が付きましたが、練習ではそれを可能な限り無くそうとしていました。ここでも自分を擁護しますが、試合の上で隙を減らそうとただけなのです。

改めて自分の人生を振り返ると個性はどこへやら。しかし、それに危機感を持っているわけではありません。私は今後もこのような感じで生きていくのでしょう。その度、「ベタだね～」と自分に言うのです。自分の価値観を揺さぶる何かに出会えるまで。

※日記の作成日と当ページへの掲載日は異なる場合があります。